

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成23年12月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成23年11月分(平成23年10月31日～平成23年11月27日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	64	0.14	7.78	↑	10	百日咳	27	0.09	0.07	↘
2	RSウイルス感染症	284	0.99	0.78	↗	11	ヘルパンギーナ	23	0.08	0.06	↓
3	咽頭結膜熱	94	0.33	0.44	↗	12	流行性耳下腺炎	212	0.74	0.57	→
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	408	1.42	1.01	↗	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
5	感染性胃腸炎	1,136	3.94	8.14	↗	14	流行性角結膜炎	86	1.18	0.80	→
6	水痘	531	1.84	1.25	↗	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	297	1.03	0.19	↘	16	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
8	伝染性紅斑	79	0.27	0.09	→	17	マイコプラズマ肺炎	50	0.60	0.23	↗
9	突発性発しん	155	0.54	0.52	↗	18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成23年11月分(11月1日～11月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	46	2.00	1.92	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	148	7.05	5.14	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	13	0.57	0.70	↑	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	25	1.19	1.79	↗
21	尖圭コンジローマ	14	0.61	0.54	→	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	22	0.96	0.89	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.19	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 インフルエンザ(21件→64件)
性器ヘルペスウイルス感染症(6件→13件)
- 急減疾患 ヘルパンギーナ(49件→23件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名（管轄保健所）
一類	0	発生なし
二類	54	結核(54)〔西部保健所(6), 西部東保健所(4), 東部保健所(8), 北部保健所(2), 広島市保健所(11), 呉市保健所(13), 福山市保健所(10)〕
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症(3) O157(2)〔広島市保健所, 福山市保健所〕, O26(1)〔広島市保健所〕
四類	14	E型肝炎(1)〔福山市保健所〕, つつが虫病(7)〔西部保健所(4), 東部保健所(1), 広島市保健所(1), 呉市保健所(1)〕, 日本紅斑熱(2)〔福山市保健所〕, ボツリヌス症(2)〔広島市保健所〕, レジオネラ症(2)〔西部保健所, 広島市保健所〕
五類全数	7	急性脳炎(2)〔広島市保健所, 福山市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所〕, 梅毒(2)〔広島市保健所〕, 麻しん(1)〔広島市保健所〕

3 一般情報

(1) インフルエンザの流行状況について

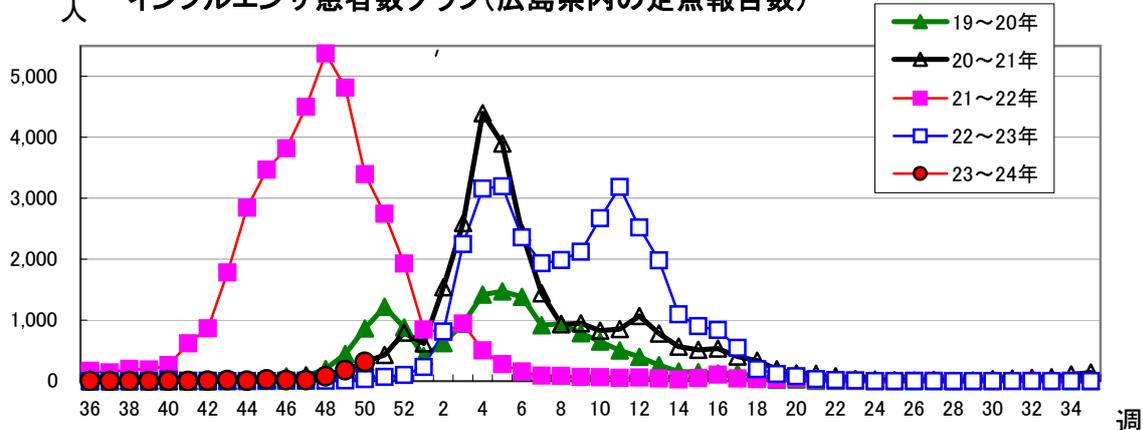
広島県感染症発生動向調査による定点医療機関(115医療機関)からの広島県全体のインフルエンザ患者報告数は、10月の21人から11月には64人と大きく増加しました。また、12月に入り第49週(12月5日～12月11日)には、定点当たり1.56となり、流行入りの目安とされている定点当たり1.0を超えました。

これから流行シーズンに向け、発生状況等の情報に注意していただき、感染予防への取組みをお願いします。

インフルエンザを予防するための注意点

- ・ 外から帰ったときなど、こまめに“流水と石けんで手洗い”を励行しましょう。
 - ・ 予防接種をまだ受けられていない方は、早めに受けることをお勧めします。
 - ・ 睡眠をしっかりとり、偏食せずバランスのとれた食事を心がけ、体力をつけましょう。
 - ・ 咳エチケット【咳・くしゃみの際にはハンカチなどで口や鼻を覆い、周りの人から顔をそむける。咳・くしゃみの症状がある場合は、不織布製マスクを着用する。】を守りましょう。
 - ・ 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度(50%～60%)を保ちましょう。
 - ・ 人が集まる場所への外出は避け、出掛けるときは、マスクを着用しましょう。
 - ・ 症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。
- 特に基礎疾患(腎臓疾患, 心臓疾患, 呼吸器疾患等)をお持ちの方や、妊婦, 高齢者, 乳幼児は合併症を起こしたり、重症化する恐れがありますので注意しましょう。

人 インフルエンザ患者数グラフ(広島県内の定点報告数)



※なお、最新の発生状況等については、次のホームページをご覧ください。

○「インフルエンザの流行状況」 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/1258079048226.html>

(2) 感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎は、冬季に流行のピークがみられる感染症です。感染性胃腸炎を引き起こす病原体は、細菌、ウイルス等たくさんの種類がありますが、冬季に流行する病原体は、ノロウイルスやロタウイルスなどウイルス性のものが多くみられます。

ノロウイルスは、非常に感染力が強く、施設内等では感染が拡大し、多くの方が罹患する傾向があり、これからの季節、特に注意が必要な感染症です。

症状	発熱, 下痢(水様便, 血便), 腹痛, 悪心, 嘔吐などの症状が出ますが、病原体によって異なります。下痢症状が遅れてでる場合や発熱を伴わない場合もあります。
予防対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗いを励行するとともに、食品は十分に加熱調理しましょう。 ・ 患者の便や吐物には多量のウイルスが含まれています。これらのものを処理する場合は、直接素手では触れず、手袋を使って処理し、汚染箇所は次亜塩素酸ナトリウムで消毒してください。 ・ 嘔吐したり、下痢症状がある時は、タオルの共用は控えましょう。